


ることを受けて、財界を中心に、またその意を受けたマスコミの政府への圧力が強まるであろう。すでに韓国とは、貿易障壁撤廃の課題を整理する共同研究会が発足しており、その検討期間も2年以内に設定されている。2002年7月8日に開かれた農水省と日本経団連の幹部が意見交換する懇談会では、農水省は「FTAの交渉に当たっては農林水産分野をセクターとして排除するものではない」とする一方で、武部勤農相は、「日本農業の置かれた厳しい状況下で利害得失を検討し、構造調整努力に支障のな

いようにしたい」とも付け加え、対応に含みを持たせたとされている。

わが国の海外食料依存度60%のもとでの国内農業の苦境と、食と農が切り離されるなかで脅かされる食料の安全性を考えると、わが国と韓国・中国の農業の共存と共生を実現することが東アジアにおける21世紀の重要な課題であり、財界が望むような自由貿易一本槍の「東アジア圏構想」に対しては「待った」をかける必要がある。



**輸入食料は  
農薬汚染など  
危険がいっぱい。  
みんなで食と農・  
国民の健康を  
守ろう。**

農民運動全国連合会  
食品分析センター所長  
**石黒昌孝**

と誠意のない態度でした。厚労省が検査しないと判っていたからです。

私達は、山東省に視察にいった仲間から、収穫直前のほうれん草に農薬をかけているという話を聞き、危険だと思っていました。

2001年4月には、和光堂のベビーフード「ほうれん草とグリーンピース」（粉末状）から1.1倍違反のフェンバレレートを検出し、調査を要求しました。厚労省は岡山県に調査を指示し、ほうれん草としては違反とならないが、今後さらに安全に努めるとの回答がありました。私たちは、抵抗力が弱い赤ちゃんの安全基準を厳しくし、農薬のないものを提供するように要求しました。

#### 一. 冷凍ほうれん草から違反農薬を発見。

農民連食品分析センターでは、2000年12月にニチレイの冷凍ほうれん草を分析し、3.4倍違反のクロルピリホスとマラチオン、シベルメトリン、BHC、DDE、ジコホルの六種類の農薬を検出しました。クロルピリホスは白蟻の駆除剤などに使う殺虫剤で神経毒性が強いためアメリカでは使用禁止です。

政府に対し輸入を禁止すべきだと警告しましたが、厚労省は、冷凍野菜は加工品で農薬の残留基準がないからと理由で放置しました。

厚労省が冷凍野菜の農薬検査をしないのは国民の安全を無視する態度で許せません。

また、「ニチレイ」も「この品物は分析していません。時々外注の分析をやるがそんなにできない」

#### 二. 冷凍ほうれん草の違反ゾロゾロ！

食品分析センターでは、2002年2月～3月にかけて市販の冷凍野菜11品目を分析しました。5品目から農薬を検出。そのうち「ダイエー便利ほうれん草」「ノースイのほうれん草バター炒め」からクロルピリホス違反、「日水の塩あじ茶豆」からフェンバレレート違反の計3品目の農薬違反を検出しました。

3月15日に厚労省で記者会見。厚労省にも資料

を送りました。当初、厚労省は従前の冷凍野菜は加工品で基準がないからという立場でした。しかし、冷凍も生鮮とほとんど変わらないので生鮮の基準で検査せよという私たちの正当な要求やBSE以降の食の安全を求める世論のたかまりが行政を動かしました。

3月20日、厚労省は冷凍野菜の10%モニター検査に踏み切ったのです。背景には、昨年末の中国青年報の報道「中国野菜47.5%が農薬基準違反」というひどい実態、スナップエンドウや絹サヤなど生鮮野菜の農薬違反が149回という激増ぶりがありました。

検疫所で検査を始めたら、すぐに冷凍ほうれん草から3.7倍違反のパラチオンが検出され、100%のモニター検査に切替えました。

### 三. ファミレスのソテーからも違反農薬が！

農民連食品分析センターでは、続いて外食店、コンビニ、弁当店計11店で購入したほうれん草製品を分析しました。驚いたことに、7店から農薬が検出され、そのうち3店は農薬違反でした。CASAでは、発ガン性が強く世界で禁止のエンドリンが検出され、基準が「不検出」なので違反です。また、ジョナサンとサンクスはクロルピリホスの6倍と2倍違反でした。これらファミレスでは調理された後ですから、調理前はずっと農薬が沢山残留していたと考えられます。

5月25日、記者会見。厚労省に通告しました。厚労省は、東京都にジョナサンの調査を指示。都の分析でも12倍のクロルピリホス違反を検出し回収命令をだしました。厚労省は全部命令検査に切替えました。その結果、検疫所で42回、自治体の検査で20回など実に60回以上の違反が続出したのです。

当然違反がでると思っていましたが、余りの多さに開いた口が塞がりません。2000年にやっていたらなああと口惜しかったです。

冷凍ほうれん草は、2001年には50,831tも輸入

され、90年の約12.5倍ともものすごい増加ぶりです。国産の冷凍ほうれん草は5,798t（99年）に過ぎず、自給率はわずか11.5%となっています。

何よりも、こんなに沢山輸入されていた冷凍ほうれん草がまったく検査されずに輸入され、農薬まみれだったということです。ファミレスやコンビニから給食、家庭まで農薬汚染で、国民の健康はまさに危機的状況です。

しかし世論の力で、ほうれん草の輸入がゼロとなり、食品衛生法を改正して違反がひどい場合は輸入禁止措置をとることができるようにさせたことは大きな成果だと思います。

### 四. 他の冷凍野菜も危険いっぱい。

続いて、私たちは、酒屋、コンビニ、スーパーなどの30店の調理枝豆と冷凍枝豆を分析しましたが外国産26店、国産が4店でした。外国産から22店から農薬が見つかり、農薬違反は「日水の塩味茶豆」が1.4倍違反で、1つの店から5～6ケの種類の農薬が見つかったのが特徴です。国産からも一店から基準の200の1の農薬がありました。安全といえます。枝豆が危ないぞと指摘した7月末に検疫所が枝豆の違反を発見。命令検査となりました。

冷凍野菜では、セロリー、刻みネギ、カリフラワー、生鮮のマツタケなど次々と違反が発見されています。何しろ、いままで冷凍野菜は一切検査なしですから、検査を始めると違反が続々見つかる訳です。中国から輸入されるものは、商社が低賃金を利用して開発輸入しているものばかりです。輸出専用ですから、農薬を使った見てくれの良いものがくるのです。

しかし、農薬違反は中国だけではなく、中国の隙間をぬってきたアメリカの冷凍ほうれん草も違反でした。また、韓国も生鮮のピーマンやキュウリやタイのオクラなど違反が続出しています。

冷凍野菜は年々増加して、2001年には全体で79万tも輸入され、9年間で2.24倍と激増。自給率は

わずか10.5%です。冷凍野菜は輸入品とみて間違いないありません。それが、危険なのですから、困りますね。

#### 五. 穀物も、果物も危険は変わらない。

ファーストフード店のハンバーガーからマラチオンを検出。市販の小麦粉、パン、うどん、ラーメンや学校給食パンから有機リン系殺虫剤を検出。外米、ヒエから農薬を検出。有機大豆と認証の輸入大豆や納豆、醤油、味噌などから有機リン系農薬を検出。中国産ゴボウから3.45倍違反のBHCを検出。アメリカ産ブロッコリーからは、ジクロロボスやピラクロホスを検出。四角柱状にカットしたアメリカ産ジャガイモからドイツの学者は発ガン性を指摘するクロロプロファミン（除草剤）を検出しています。

果物では、レモンからイマザリル（殺菌剤）アセフェート等を検出。バナナからはクロルピリホスを検出。リンゴからTBZ、イチゴからキャプタンを検出などポストハーベスト農薬が問題です。農薬の残留基準が緩められているため違反にはなりません、子どもたちの健康といのちにかかわることです。徹底的に、安全を厳重にチェックすべきです。

#### 六. 遺伝子組み換え食品、添加物の増加

大豆、トウモロコシ、菜種、綿実など遺伝子組み換え食品が700万tも輸入されています。ところが農水省の検査で、有機の豆腐製品から、組み換えが発見されたり、未許可のスターリンクが上陸していたり、安全についても心配があるのですから、しっかりチェックすべきです。

また、添加物違反が増えており、外国で許可されているからと、フェロシアン化塩を職権で認可を増やし、さらに輸入を進めるために添加物を増やそうとしています。添加物は削減すべきです。また、O-157病原性大腸菌や新型サルモネラ耐性菌、重金属汚染なども問題になっています。

#### 七. 厚労省の輸入検査体制の強化が課題

こうしたなかで、事実上素通りになっている厚労省の検査体制の強化は急務です。いまでも、生鮮、冷凍野菜の検査はモニタリング検査で僅か10%です。つまり、90%は検査なしです。加工品については残留基準がないということで、検査はゼロです。モニタリング検査ですが、水際で試料を採取し、品物は市場に流れるので、国民の口に入ってから違反だと、回収命令がでてからの祭りです。基本は水際で止めて、検査するべきだと思います。現在の厚労省検査担当職員は少なすぎます。少なくとも千人以上にすべきです。坂口大臣は、人は増やせない、商社がやるべきだといいますが、国がちゃんと検査することが鍵だということは、冷凍ほうれん草の例が良く示しているではありませんか。

#### 八. 輸入で子どもたちの健康は脅かされる。

食糧自給率はカロリー計算で39%、穀物自給率が26%と最低です。大根おろし、刻みネギ、切り干し大根、きのこ、キンピラ、筑前煮、タコ焼き、などあらゆるものが輸入されています。食物が輸入品に占領された結果食事は、米、豆、魚、野菜、ミネラル、食物繊維が不足、肉、油が過剰で日本の食文化が破壊された結果、国民の健康は重大な事態になっています。医者がアレルギーだと認めた子どもたちが小学生から高校生まで45%です。子供にも生活習慣病が増え、視力が低下した子どもが激増しています。また、ガンも増えており、その原因は農薬、添加物まみれの輸入食品が原因だと思います。

#### 九. 国産食べたいが世論。自給率向上を

国産が食べたい90%、輸入がよい0.4%（内閣府調査）、輸入品は食べたくない、これが世論です。私たちは、輸入が増えている農産物は緊急輸入制限措置（セーフガード）を発動して輸入を制限すべきだと思います。

また、安心して農業がやっていけるように国が農

産物の価格を保障すべきです。市場や小売りの仲間とも手を結んで、農家、市場、卸、小売が一緒になって、地域の生活圏（セーフエリア）を守る運動と農業を守る運動を広げたいと思います。そして、子

どもたちが、新鮮、安全な国内産が食べられるように力を合わせて頑張ろうではありませんか。

世界的に食料が不足するいま、食と農を守ることはまさに国民的、国際的な課題です。

### 冷凍野菜の残留農薬分析結果

(単位：ppm) 農民連食品分析センター

No.	品名	輸入者販売者	原産国	農薬名	分析結果
①	フローズンベジタブル 便利冷凍野菜ホウレンソウ	天津大栄株式会社 ダイエー株式会社	中国	シペルメトリン フェンバレレート	0.93 0.043
②	ニチレイ ホウレンソウ	ニチレイ株式会社	中国	クロルピリホス マラチオン ジコホール シペルメトリン 総 BHC pp-DDE	0.034 0.048 0.027 0.114 0.057 0.004
③	セイユーファインセレクト ヤングインゲン	スマイル株式会社 西友株式会社	タイ	シハロトロリン	痕跡
④	セイユーファインセレクト ブロッコリー	スマイル株式会社 西友株式会社	メキシコ	農薬を検出せず	
⑤	あけぼの無農薬栽培 栗カボチャ	ニチ口株式会社	チリ	農薬を検出せず	
⑥	フローズンベジタブル 便利冷凍野菜サトイモ	天津大栄株式会社 ダイエー株式会社	中国	農薬を検出せず	
⑦	フローズンベジタブル 便利冷凍野菜ソラマメ	天津大栄株式会社 ダイエー株式会社	中国	農薬を検出せず	
⑧	フローズンベジタブル 便利冷凍野菜インゲン	天津大栄株式会社 ダイエー株式会社	中国	農薬を検出せず	
⑨	ニチレイ菜の花	ニチレイ株式会社 ダイエー株式会社	中国	農薬を検出せず	

【試料入手先】 ダイエー成増店・西友成増店

【試料入手年月日】 2000年12月4日

【分析年月日】 12月5日から7日

## 外食店ハウレン草製品残留農薬分析結果 農民連食品分析センター

農民連食品分析センター

No.	品名	販売店	分析結果単位ppm( )内は基準値		
①	ハウレンソウとしめじソテー	C A S A 光ヶ丘店 〔株〕西洋フードシステムズ	エンドリン シベルメトリン	0.1 0.02	(不検出) (2.0)
②	ハウレンソウのソテー	ジョナサン成増駅前店 〔株〕ジョナサン	クロルピリホス シベルメトリン	0.06 0.08	(0.01) (2.0)
③	ハウレンソウのソテー	B Y L D Y 成増店株 ビルデイ	シベルメトリン	0.02	(2.0)
④	6品目のハウレンソウの ごま和え	サンクス成増北口店 チェリーフレッシュフーズ株	クロルピリホス シベルメトリン	0.02 0.03	(0.01) (2.0)
⑤	ハウレンソウのソテー	すかいらーく 朝霞城山店 〔株〕すかいらーく	クロルピリホス シベルメトリン ダイアジノン	痕跡 0.03 痕跡	(0.01) (2.0) (0.1)
⑥	ハウレンソウのソテー	D e n n y s 和光店 〔株〕デニーズジャパン	シベルメトリン マラチオン pp-DDE	0.07 痕跡 0.016	(2.0) (2.0) (0.2)
⑦	ハウレンソウのソテー	Royal Host 戸田店 〔株〕オージーロイヤル	シベルメトリン プロチオホス	0.21 0.87	(2.0) (設定なし)

【試料入手年月日】 2002年4月5日～15日  
【分析年月日】 2002年4月5日～18日

- 下線付きのものは、残留農薬基準(生鮮ハウレンソウとしての残留基準)の違反に該当するものです。
- ①番のエンドリンは不検出が残留基準なので、検出されたものは完全に違反です。
- ②番④番のクロルピリホスは0.01が基準なので、それぞれ、②番が6倍、④番が2倍の違反です。
- 11試料を分析して、3試料が違反とは重大な事態です。⑥番はpp-DDEが違反スレスレ。
- ⑦は基準値が未設定ですが、既設定のキャベツ、ブロッコリー(0.2)と比較すると違反です。

## 中国産冷凍野菜の残留農薬分析結果

品名 輸入者または製造者	分析結果			
	農薬名	含有量 (ppm)	基準値 (ppm)	主な毒性
① フローズンベジタブル 便利冷凍野菜ほうれん草 株ダイエー	クロルピリホス	0.09	0.01	発ガン性 遺伝毒性
	シベルメトリン	1.39	2.0	発ガン性
② キャブテンクック ほうれん草のバター炒め 株ノースイ	エンドスルファン	0.09	設定なし	強魚毒性
	クロルピリホス	0.013	0.01	発ガン性 遺伝毒性
③ 塩あじ茶豆 日本水産株	シベルメトリン	痕跡	5.0	発ガン性
	フェンバレレート	1.41	1.0	遺伝毒性
④ 塩あじ茶豆 日本水産株	シベルメトリン	0.024	5.0	発ガン性
	フェンバレレート	0.056	1.0	遺伝毒性
⑤ 小分けハウレンソウ 株ニチレイ	pp-DDE	痕跡	0.2	発ガン性

【試料入手年月日】 2002年2月16日～3月4日  
【分析年月日】 2002年2月19日～3月5日  
【試料入手先】 ①②④はダイエー成増店、③⑤は西友東長崎店

## 冷凍ハウレンソウ 冷凍野菜の輸入量

	単位 (t)	
	冷凍ハウレン草	冷凍野菜
1990年	4,011	345,110
91年	14,025	406,863
92年	11,499	420,987
93年	15,781	454,733
94年	21,846	529,279
95年	21,216	578,216
96年	27,074	633,008
97年	30,633	654,896
98年	45,814	732,197
99年	44,426	773,339
2000年	44,978	772,759
2001年	50,831	786,147
国産99年	5,798	90,382
自給率	11.5%	10.5%

※編集者注：検査のサンプルは任意抽出による限定されたものであり、他の業者・店舗の食品の安全を保証するものではない。